

# 同志社中学校・高等学校

(様式 4-2 : 2019 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度

実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称：駅と地域を活性化する中学生ムーブメント 叡電 八幡前駅プロジェクト (産学協同 第9期目) <教科外 特別活動 (同中学びプロジェクト) >					
2. テーマ：地域の人にとっても、同志社生にとっても、大切な八幡前駅を 自分たちの手でもう一度「素敵な駅」にしよう					
3. 実施教科：教科外での特別活動として実施					
4. 関連単元： なし (活動の監修は、社会科および技術科)					
5. 実施単元数：なし (ただし、活動期間は 2019 年 4 月～2020 年 3 月の通年 (ミーティング回数は 56 回、活動時間の総計は 100 時間以上)					
6. 学年	中 1～3	7. クラス数		8. 生徒数	最大時 12 名
9. 実施内容  ■プロジェクトの目標としては、以下 3 点である。  (1) 駅利用者の地下鉄への流出や、地域の少子高齢化によって活気を失っている叡電「八幡前駅」。地域や同志社にとって大切な「八幡前駅」を、自分たちの手でもう一度「素敵な駅」にしたい。  (2) 第 9 期も、第 8 期に続き、交通環境学習 (モビリティ・マネジメント教育) の支援事業に認定され、“人や社会、環境にやさしい” という観点を継続的に加え、より都市環境・交通環境への貢献や還元度の高い学習活動に発展させる。  (3) プロジェクト活動の中から生み出されたコンセプト『持続可能な地域・駅をつくる』ことを目指し、最終的に地域のチカラで駅が活性化され続ける状態を生み出すためのアクションを実施していく。  ■具体的な実施内容の要点は以下ア)～ク) のとおりである。  ア) 前期からの継続メンバー 9 名 (中学 2 年有志) が春から活動を進め、随時、全校生徒に対して有志メンバーを募集し、最大 12 名 (2 年生 9 名、3 年 3 名) となって、2 月末に新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休校になるまでの期間までほぼ通年で活動することができた。					

イ) 八幡前駅を分析（リサーチ・フィールドワーク）し、特徴と課題をとらえ、誰にとってどのような魅力的な駅にしたいのか議論を重ね、コンセプトを再確認。「地域・交流」を生み出す「ココアツ」な駅をプロデュースするというテーマを継続し、その活動を地域に根付かせることまでをゴールに「持続可能な駅・地域」づくりを目指すことを確認する。特に、『「知ってもらおう」から「誰もが知ってる」へ』と『「参加してもらおう」から「ワタシも関わる・ワタシがつくる」へ』という概念の変換を起こすことを考案した。

ウ) これまで叡電に対して継続提案を行ってきた「駅に待合室をつくる」提案を具体化のフェーズに進める。社会の認知を広めつつ、費用も募ることができる“クラウドファンディング”にチャレンジすることを決め、準備に入る。

エ) 2019年8月4日に、東京・広尾学園を会場に開催された『Learn by Creation（主催：一般社団法人 SOLLA 後援：経済産業省）』における『ふかいまなび/ミライは私たちが創る～中高生による実践共有～』へ出展することができ、国内でも先端に行く実践をする各地の中高生とともに活動報告をする。「八幡前駅プロジェクト」が、学校内や近隣地域にとどまらず、全国に飛躍した記念すべき瞬間となる。

オ) 2018年の台風21号により運休となった叡電鞍馬線の沿線の森林倒木被害について、叡電から状況を聞き、復興支援のため（京都の森林組合に対して）の募金活動を実施して集まった寄付金を、8月23日に京都市森林組合へ贈呈。感謝状もいただき、京都新聞にも掲載される。

カ) 待合室実現への“クラウドファンディング”にむけて、叡電の承諾を得るプレゼンにむけて、どのような待合室にするのか、それをどのように活用していくのか、企画会議を重ねる

キ) 待合室の企画に客観的な裏付けを得るべく、アンケート調査を実施する。アンケート項目づくりも議論を重ね吟味し、実際に全校生徒対象の校内アンケートと、一般対象（本校のオープンキャンパス来校者）アンケートと、駅利用者・地域住民対象に街頭アンケート調査を行う。

ク) 季節ごとのイベントとしては、「クリスマスデコレーション&イルミネーション」を行い、同時に駅ホームに活動の様子やメッセージを伝える看板も設置して、地域住民や駅利用者へのアピールを行う。

ケ) 叡電本社での役員・社員の皆さまへのプレゼンテーションを実施。継続している「駅ホームに待合室をつくる」提案の内容として、アンケート調査結果も踏まえながら、具体的な待合室の体裁や、その活用アイデアを交渉する。またその資金獲得にむけて“クラウドファンディング”を実施したい希望も提示し、一定の理解を得ることに成功する。

コ) 学期の終業式では、全校生徒への活動状況を報告するプレゼンを実施。駅への注目度を上げるだけでなく、イベントへの参加や駅利用を促している。

サ) “クラウドファンディング”に向け、コミュニケーション web サイトを一部改訂・更新する ※新型コロナウイルス感染症防止による臨時休校措置で未完※

## 10. 学習のながれ：

＜※当支援制度の定めにより、支援開始は7月以降で、プロジェクト計画としては、秋以降から半年での学習活動期間を想定して申請しておりますが、前年度から継続した生徒メンバー（前年度1年生メンバーが2年生へ）が春から活動を進めていたため、以下の報告は通年での活動となっております＞

2019年4月、継続メンバーが進級し、また新たな加入者もあり、2年生中心の新メンバーとなる。（継続メンバーは改めて、）八幡前駅を分析（現地のリサーチ・フィールドワーク）し、良い面と課題面をとらえ、自分ならどのような工夫をして、誰にとって、どのような魅力的な駅にしたいのかを考えることからスタートした。

個人または複数名のチームで、アイデア出しと企画提案のミーティングを重ね、結果的に前年度まで継続してきたコンセプトを踏襲することとなる。「地域・交流」を生み出す「ココアツ」な駅をプロデュースするというテーマを継続し、その活動を地域に根付かせることまでをゴールに「持続可能な駅・地域」づくりを目指すことを確認する。特に、『「知ってもらう」から「誰もが知ってる」へ』と『「参加してもらう」から「ワタシも関わる・ワタシがつくる」へ』という概念の変換を起こすことを考案できたことが、より今年度での活動を明確にする指針となった。

これまで叡電に対して継続して提案を行ってきた「駅に待合室をつくる」提案を具体化のフェーズに進めることを決める。『「知ってもらう」から「誰もが知ってる」へ』と、『「参加してもらう」から「ワタシも関わる・ワタシがつくる」へ』を達成できる方法として、社会の認知を広めつつ、費用も募ることができる“クラウドファンディング”にチャレンジすることと、地域住民や駅利用者とともに駅でのイベント“ココアツデー”を行うことを決める。

“クラウドファンディング”はどのようにすればいいのか？中学生にとって言葉は知っているが内容は知らないもの。種類や方法など、それぞれにリサーチして情報を持ち寄り、情報共有しながら学びあうミーティングを重ねて研究した。実際にクラウドファンディングを経験し成功させた高校生によるレクチャーを受ける勉強会も実施。プロジェクトを細部まで構成させる必要性和、伝えて共感を得られるようなストーリーに仕立てる必要性、さらには支援獲得目標の達成にはキャンペーンを成功させる計画性も必要だと学び、かなりハードルが高いことを認識する。

そんななか、2019年8月4日に、東京・広尾学園を会場に開催された『Learn by Creation（主催：一般社団法人 SOLLA 後援：経済産業省）』における『ふかいまなび/ミライは私たちが創る～中高生による実践共有～』へ出展するチャンスを獲得する。（本校教員が運営関係者におり、当プロジェクトを関西方面の代表として推挙してくれたことにより白羽の矢が立つ。）学校内で終始せず、実際に社会や企業と連携して成果をアウトプットできている活動としては希少なほうで、国内でも先端に行く実践をする各地の中高生とともに活動報告をする。「八幡前駅プロジェク

ト」が、学校内や近隣地域にとどまらず、全国に飛躍した記念すべき瞬間となる。現地では、活動の紹介をしつつ、参加者ならどんなアイデアを八幡前駅に出すか？といったワークショップも交えての参加型の発表を複数回実施。参加生徒たち（任意参加4名）は、多様な人たちとの交流もし、大人や同世代の方々から評価されたことで、小さくとも大きな収穫があった。【資料A・B・C】

また、8月23日に京都市森林組合さんへの訪問も果たすことができた。2018年の台風21号により運休となった叡電鞍馬線の沿線の森林倒木被害について、叡電から状況を聞き、復興支援のため（京都の森林組合に対して）の募金活動を実施して集まっていた寄付金[14,582円]を、京都市森林組合（田中俊夫 組合長）へ贈呈。感謝状もいただき、贈呈式の様子は京都新聞にも掲載される。贈呈式では、2018年冬から2019年春にかけて、プロジェクトとして駅ホームで実施した地域交流イベントでも募金活動を行い、駅利用者や、地域住民の皆さんからの募金をいただいたこと。また、同志社中学校内でも礼拝でのアピールも行い、募金を集めたことも伝えるとともに、八幡前駅プロジェクトの活動状況もプレゼンすることができた。森林組合さんからは、「森林組合って何？どんなことをしているの？」「今年の台風による倒木被害がどれだけだったか？」「森林組合が抱える課題や、これからの展望」など、普段わからない、なかなか知りえることができない仕事の話がたくさんお教えいただき、交流を図ることができた。駅の待合室づくりに、木材を使用する際の協力も可能性として示唆を得ることができた。【資料D・E】

9月から10月にかけて、引き続き、待合室実現への“クラウドファンディング”を研究し、準備を進める。そのうえで、叡電の承諾を得ることが必要となり、叡電へのプレゼンにむけて企画会議を重ねる。どのような待合室にするのか、それをどのように活用していくのか、、、待合室を木材や廃コンテナ等で作るアイデアや、子どもが遊べる空間にしたり、ちょっとしたミーティングや勉強もできたり、ギャラリーやマーケットもできるような、、とさまざまに内容を膨らませていく。コンセプトに照らしながら、アイデアから必要なものを厳選し、企画に組み立てていく。そのなかで、自分たちが考えている企画が、独りよがりな発想になっていないか？と気づく。「自分たちが実現したいことは、本当に求められていることなのか？自分たちのアクションが、ちゃんと社会とつながるのか？」。待合室をつかう人たち（地域住民や駅利用者）の声とコミュニケーションを取らなければ、叡電への提案も絵空事になってしまう。ということで、待合室の企画に客観的な裏付けを得るべく、アンケート調査を実施することを生徒たちが決める。

アンケート項目づくりにはかなり難航した。街頭アンケートを基本にすると、短時間で要領よく回答を得る工夫が必要になる。聞きたいことを考えるだけでなく、それをシンプルかつ明確に提示できる表現に練り上げなくてはいけない。かなりの回数の議論を重ね吟味し、実際に全校生徒対象（約900名）の校内アンケートと、一般対象（本校のオープンキャンパス来校者 約1,000名）アンケートと、駅利用者・地域住民対象（約100名）に街頭アンケート調査（11月）を行った。回答数は486、回答率は約26パーセントとなった。地域での人と人との交流を希望する人は多数である。交流がしやすい場所・空間の条件や、快適な待合室空間の広さ、どんな工

夫が嬉しいかなどが分かった。【資料F・G・H】

12月、アンケート結果の分析と提案準備を進めつつ、例年、叡電と共同で実施している「八幡前駅のクリスマスデコレーション&イルミネーション」も行った。地域の方々から『今年はまだかまだかと毎日楽しみにまっていたよ』『いつも冬は（駅が）明るくて楽しい雰囲気になるからいい』などの声も寄せていただき、当活動がすでに地域に認知されていることを生徒たちも実感した。クリスマスの装飾とともに、駅ホームに中学生の活動の様子やメッセージを伝える看板も設置して、地域住民や駅利用者へのアピールを行った。

12月18日に、叡電本社での役員・社員の皆さまへのプレゼンテーションを実施。継続している「駅ホームに待合室をつくる」提案の内容として、アンケート調査結果も踏まえながら、具体的な待合室の体裁や、その活用アイデアを交渉する。またその資金獲得にむけて“クラウドファンディング”を実施したい希望も提示し、一定の理解を得ることに成功する。叡電からは、『待合室が出来た後の具体的なアクションプランももっと考えて欲しい』、『待合室が出来た後も、みなさんの活動は継続してくれるのか』などと、待合室計画をともに温めていく方向性を共有しながら、前向きなご意見を返していただけた。【資料I】【動画あり】

12月20日、学期の終業式では、全校生徒への活動状況を報告するプレゼンを実施。駅への注目度を上げるだけでなく、今後のイベントへの参加や駅利用を促した。【資料J】【動画あり】

1月8日には、叡電からの機会提供で、叡電の特徴的な駅舎〔宝ヶ池駅・八瀬比叡山口駅・二ノ瀬駅・鞍馬駅〕を視察見学させてもらう沿線ツアーを実施。各駅の特徴（木造、テラス構造、装飾の工夫など）を改めて取材して持ち帰る。【資料K】

また、“クラウドファンディング”に向け、コミュニケーション web サイトを一部改訂・更新する制作作業に着手。※新型コロナウイルス感染症防止による臨時休校措置で未完※

◆八幡前駅プロジェクト web <https://jhs.js.doshisha.ac.jp/jhs/hmmpj/>

3月に再度、“クラウドファンディング”の実行計画を叡電へプレゼンすることを目指して、2月も企画会議を重ねる。待合室の仕様を固めて見積をたて、具体的な費用を概算で算出。クラウドファンディングもプラットフォームとするサービスをどの会社にするか（Ready for を選択）、どんな方式（All or Nothing を選択）にするか、スケジュールや戦略、さらに支援者へのリターンを設計するなど進めてきた。

※2月末をもって、新型コロナウイルス感染症防止による臨時休校措置となり、リアルな活動は休止に追い込まれるが、3月はオンラインミーティングを試行した。

以上

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付し

## プロジェクト計画書

同志社中学校 古城 郷

### プロジェクト名：

同志社中学校×叡山電車 駅と地域を活性化する中学生ムーブメント

「叡電 八幡前駅プロジェクト」第9期 <教科外 特別活動(同中学びプロジェクト)>

### プロジェクトの目標：

- (1) 駅利用者の地下鉄への流出や、地域の少子高齢化によって活気を失っている叡電「八幡前駅」。地域や同志社にとって大切な「八幡前駅」を、自分たちの手でもう一度「素敵な駅」にしたい。
- (2) 第8期は、交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)の支援事業に認定されることで、“人や社会、環境にやさしい”という観点を継続的に加え、より都市環境・交通環境への貢献や還元度の高い学習活動に発展させたい。

### プロジェクト運営方針：

- (1) 生徒の発想を信じ、出来るかぎり尊重する。
  - 大人が失敗や限界を恐れない。
  - 予算や期限・条件などの制限は与えつつ、できるだけ発想が実現するように支援する。
- (2) 生徒達が率先して動かない限り、大人から積極的に手伝わない。
  - 産学協同プロセスを生徒自身が体験(自分事にする)し、達成することが重要。
- (3) 生徒の背中を押すことはするが、計画、実践、報告は生徒で企画・準備して実行する。
  - “プロジェクトリーダー”は子ども(たち)。運営にあたる教職員・企業人は、あくまでも“世話人”“コーディネーター”“ファシリテーター”として関与する姿勢を貫く。

### プロジェクトを通して獲得させたいもの(評価について)：

自由応募の有志生徒(中学1~3年対象)で実施するもので、成績評価の対象ではない。

すでにある課題の解決や、まだない新しいことへの挑戦。これらを実社会で実現させる。産学協同プロジェクトはこれを可能にするので、子どもたちは「達成感」と「自信」を獲得する。

課題に対して「こんなことやってみたい」「こうしたら良くなると思う」と考案し、プランに仕立て、企業に対してプレゼンテーションし、評価を受け、さらに練り直し、認められ、誰かに任せられるのではなく自らの手で準備し、実行・実現させ、新聞記事にも報道され、その成果を全校生徒の前で報告する。実際にカタチになるのは、学校の中ではなく社会。学校内で完結する活動とは別次元の「達成感」を子どもたちは感じるができる。また同時に「自分たちが子ども扱いされなかった」「自分たちが考えたことも社会のなかで通用する」「私も社会の一員としてアクションすることができる」といった「自信」を得て、こういった取り組みをもっとやっていきたいという意識も育成することを目指す。この「達成感」と「自信」が、学習意欲の向上や、日々の学校内での諸活動へのモチベーションに還元されていくことが到達地点である。

また、実社会での仕事さながらのプロセスを体験することで、「デザイン思考」を実践するトレーニングにもつながっている。観察やインタビューを通して“共感(Empathize)”し、収集した情報を議

論しながら整理しコンセプトを決め“問題定義 (Define)”を行い、自分だけでなくメンバー全員で  
 どんどん“アイデア創出 (Ideate)”をして提案をまとめていく。さらにそのアイデア (プラン)  
 を実際に試作して検証し、作り直して練り上げていく“プロトタイピング&テスト (Prototyping &  
 Test)”も実践している。「デザイン思考」を通して、自らの力を他者との協働 (チームワーク) のな  
 かでアウトプットする実践経験を積む。それぞれのプロセスのなかにおいても、柔軟に発想する力、  
 自ら意見する力、他者の価値観の尊重や、チームとして調整する力、表現力など多様な能力が求めら  
 れることから、この産学協同プロジェクトでの学びが、将来、大学生や社会人として研究や仕事に取  
 組んでいくことにつながる有効な原体験になると考えられる。

PBL (Problem Based Learning/Project Based Learning) として、アントレプレナーシップ獲得の  
 学習活動としても有効である上に、「駅」「電車」といった公共交通機関や施設の活用を主眼とした学  
 びを通して社会資本理解・地域貢献活動等につなげていくプロジェクトである。取り組んだ成果が、  
 実社会のなかで発表 (実行) されるため、そのサービスを体験する人 (駅利用者や地域住民など) か  
 らのリアルな感想こそが、成功であっても失敗であってもダイレクトな評価として生徒たちには与え  
 られるものとする。

### 進行計画：

プロジェクト参加者・・・中学1～3年対象 (有志10名程度が中心となって運営)

中学校 全校約880名、および当該駅の利用者、

近隣地域住民、叡山電鉄の職員が参加する見込み

フェーズ	ねらい	手段	ポイント
[1] 要件の構築・確認	企業と学校とで、大まかな 期間設定や着地点の想定、 活動の前提となる条件設定 (ヒト・モノ・カネ) を行 い、相互共有しておく	*企業担当者との打ち合わ せ (必要に応じて現地訪問)	*プロジェクト運営の基本 的な心構えについて、しっ かりと共通認識を構築する ことが大切  *中学生との積極的なやり 取りを期待していることを 伝える。(特に若手社員等が 担当するなどが理想的)
[2] メンバー募集	対象とする生徒 (全校また は学年指定・男女など) カ テゴリーに対して、プロジ ェクトの意義や魅力をアピ ールして“有志”でのメン バーを募集する	*募集ポスターを作成し、 校内各所に掲示  *募集用の動画 CM を作成 し、全校礼拝で伝達アピ ールを行う	*ポスターには、デザイン 性 (感度の高い生徒向け) やワクワク感 (好奇心を喚 起)、そしてテーマが伝わる コンセプチュアルなメッセ ージ (共感) を意識して作 成する  *動画は印象的に伝わる効 果が大きいので積極的に活 用する
[3] ワークショップ/ ミーティングの運営 (活動期間中は週に1回ペ ース)	【1】キックオフ (アイスブ レイク・導入)	【1】ペアゲーム/全員の自 己紹介/現状のイメージ共 有/ブレインストーミング /履歴確認	【1】*共通点探しゲームな どで楽しくアイスブレイク させる/ *既存の八幡前駅 についてイメージを共有す る (写真でも提示する) /

<p>※生徒たちで進行をまかなえるようにできたらベスト。企業の担当者がミーティングのファシリテータを行う場合もありえる。</p>	<p>【2】全員でのアイデア出し／全体のコンセプトメイキング</p> <p>【3】フィールドワーク／実地見聞</p> <p>【4】個人でのプラン作り／自分のプランを全員にシェア</p> <p>【5】コンテンツごとのタスクやスケジュールを明確にする</p>	<p>【2】いくつかのグループに分かれてのフセンを使ったワーク形式</p> <p>【3】フィールドワークしてレポートを書く</p> <p>【4】個人でのワークシート／個人別のプチプレゼン</p> <p>【5】全員でのディスカッション形式</p>	<p>*「素敵な駅」ってどんな駅？自由に発想させる／*これまでの八幡前駅プロジェクトの活動を知る</p> <p>【2】*「八幡前駅」を利用したくなる駅にするためにやってみたいアイデアを自由に発想させる。ただし何を、誰に、いつ、何のためになどの項目ごとに整理しながらアイデア出しができるようワークシートを工夫する。</p> <p>【3】*可能であれば実地見学に付き添う。 *写真撮影をしておくよう促す。</p> <p>【4】*この時点ではコンセプトを必要以上に強調して印象付けておく必要がある／*個人別に出てきたアイデア（プランになってないものがほとんど）をホワイトボード上でカテゴライズしていく／*どれを実行していくか全員と確認しながら、コンテンツを絞っていく、担当も明確にして共有する</p> <p>【5】*全員から意見を出してもらいながら、アイデア1つ1つについて詳細を明確にしていきつつ、あいまいなことを浮き彫りにして課題にする／*コンテンツごとの担当者だけで担当パートについて考えるのではなく、全員の意見から導かれた共有イメージにコミットすることで責任感を高める</p>
--	---	--	---



フェーズ	ねらい	手段	ポイント
[4] 初回プレゼン	プランを企業担当者にプレゼンして、実現可能な是非を問う	個人またはグループで、駅に対しての提案を発表する。プレゼンスライドや、イラスト、試作品などを用いて、1人あたり5分程度とする。	<p>*プレゼン内容を精査する際に、すぐに実現可能な短期的なもの、実現まで時間やお金の捻出が必要になる中長期的なもの、企業担当者とともに精査して仕分けを行う。</p> <p>*企業担当者には、真剣に採否を判断していただき、どこが良いのか、なぜ無理なのかなどをシビアに評価していただくことを大切に</p>
[5] 実現した短期的な企画を実行させる	提案が実現した企画を、実際に行うことにより、「本当に実現させることができるんだ！」と生徒の意欲をさらに高めるとともに、実行してみて分かる難しさや課題を見つけさせる	基本的には子どもたちの主体的な動きによって行われるようにフォローする（準備や片づけも）	<p>*短期的な提案を実現させる場としては、クリスマスに関連する取り組みについて叡電から内諾もらっておく。</p> <p>*プレスリリースを行い、マスコミに取材してもらい、実際に新聞やテレビ等に紹介されることを目指す。</p>
[6] ワークショップ/リサーチなど	中長期的な提案と受け止められた企画案を実現させるために再プレゼンを目指す	[3]のプロセスを繰り返す	
[7] 専門家のアドバイスを受ける	プロデュース/デザイン/公共空間を計画するなどの専門家（企業で実践している方や専門分野の大学教授など）の講義やワークショップを経験して、自分たちのプランニングに活かす	企業・大学研究室等に出向く、または出前講義を学校で行ってもらうなど	<p>*プロの視座を得ること</p> <p>*自分たちのプランをどのように改善したり発展させたりすべきかを学ぶ</p> <p>*自分たちのプランに自信を持つこともできる（プロにお墨付きを得たことを企業に対してもアピールできる）</p>
[8] 再プレゼン	プランを企業担当者にプレゼンして、実現可能な是非を問う	個人またはグループで、駅に対しての提案を発表する。プレゼンスライドや、イラスト、試作品などを用いて、1人あたり5分程度とする。	<p>*企業担当者には、真剣に採否を判断していただき、どこが良いのか、なぜ無理なのかなどをシビアに評価していただくことを大切に</p>

フェーズ	ねらい	手段	ポイント
[9]企画実施本番(仕上げ)	子どもたちの本番(仕上げ作業等)をきっちり完了させる/成功も失敗も含めて達成するようにする	基本的には子どもたちの主体的な動きによって行われるようにフォローする(準備や片づけも)	*最終的にコンセプトに沿ったものになっているかチェック
[10] 会社訪問の調整と同行	産学協同でパートナーになった企業の実際の現場を見学することで、職業観を獲得してもらう	*本社への訪問 *事業についての説明 *現場の見学(社内・工場) *作業の模擬体験	*プロジェクトの締めくくりとして位置付けると、自分たちがやってきた取り組みが、実社会の企業でも行われているということに直面して、共感・納得とともに職業観を獲得してもらえ
[11] 発表の場をセッティング	*プロジェクトの取り組みを、学校内の全校生徒や、産学協同した企業の方々に知ってもらう	相手企業社内や、全校礼拝などでのプレゼンテーション	*プレゼンテーションの内容・編集・スライドの作成など一切を子どもたちに任せる
[12] 広報	*当プロジェクトの活動を学校内をはじめ、駅利用者、地域住民などへ広く知ってもらい、今後さらに協力的な地盤を整える	*駅ホームでの看板掲示 *チラシの配布 *Web ページ作成	*どのような表現で、どのような情報を発信するかも生徒たちが主体的に考えるようにする。手作り/プロへの外注の両方を活用できるように助言する
[13] 活動のまとめ・振り返り	*自分たちが何を達成できたのかしっかりと噛みしめる *自分たちがどう歩んできたか、何がもっとできたはずなのか、子どもたち自身が振り返る *この経験が今後どのように自分に活かされると思うか考える	*これまで行った取り組みをまとめた振り返りバージョンの通信を配布する *各自で振り返る感想アンケートを実施 *打ち上げミーティング(慰労のお茶会)	*「やってよかった」の雰囲気が一番大切にする(1人1人のなかでの肯定感・達成感を持ってもらう) *協同した企業や担当者へのメッセージも書いてもらい、そのメッセージを企業へフィードバックとして渡す

### スケジュール(案):

2019年9月 有志メンバー公募 (募集:男女8名~10名 / 対象:中学1~3年生 約880名)

10月 フィールドワーク/ワークショップ

11月 ワークショップ/初回プレゼン

12月 プラン実行(初回:クリスマス関連)/振り返り

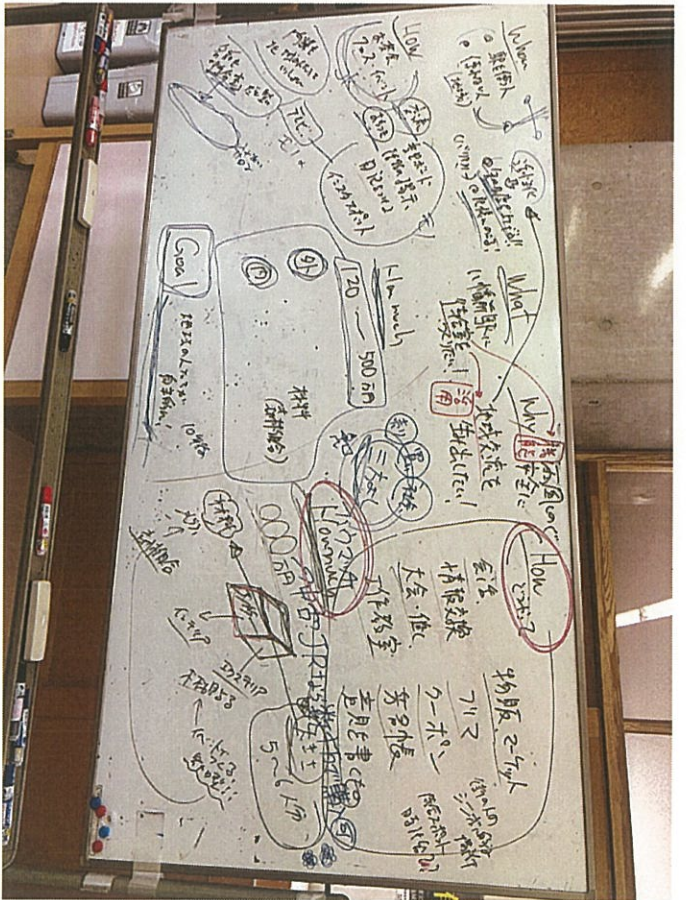
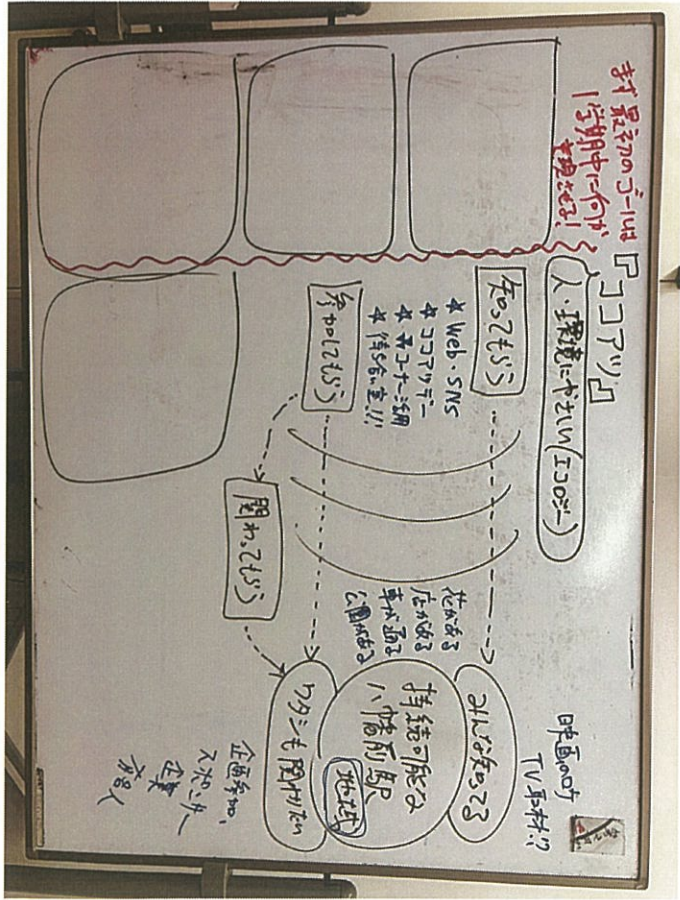
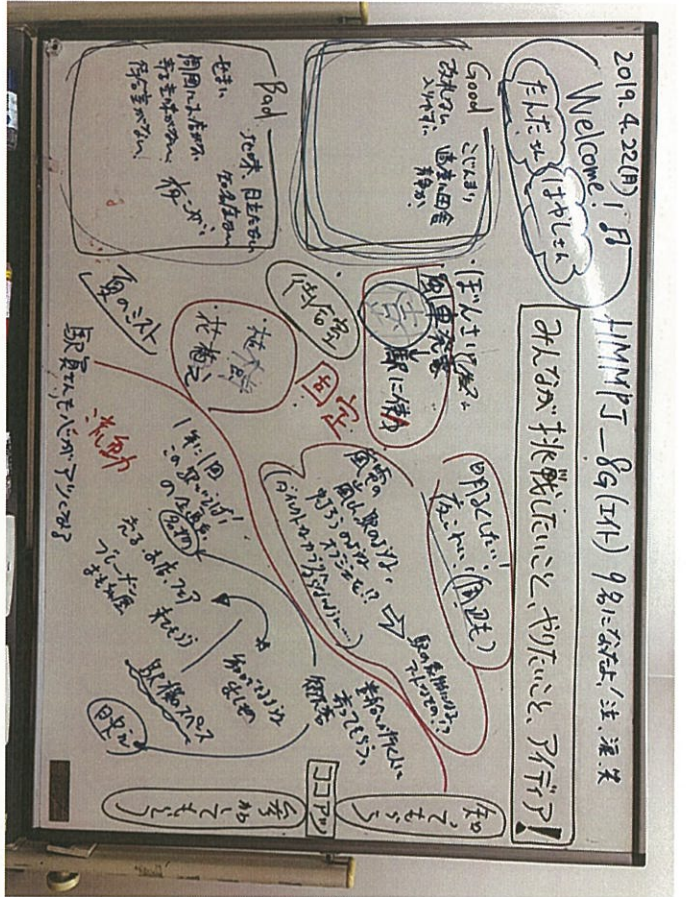
1月 ワークショップ

2月 ワークショップ/専門家のアドバイス/再プレゼン

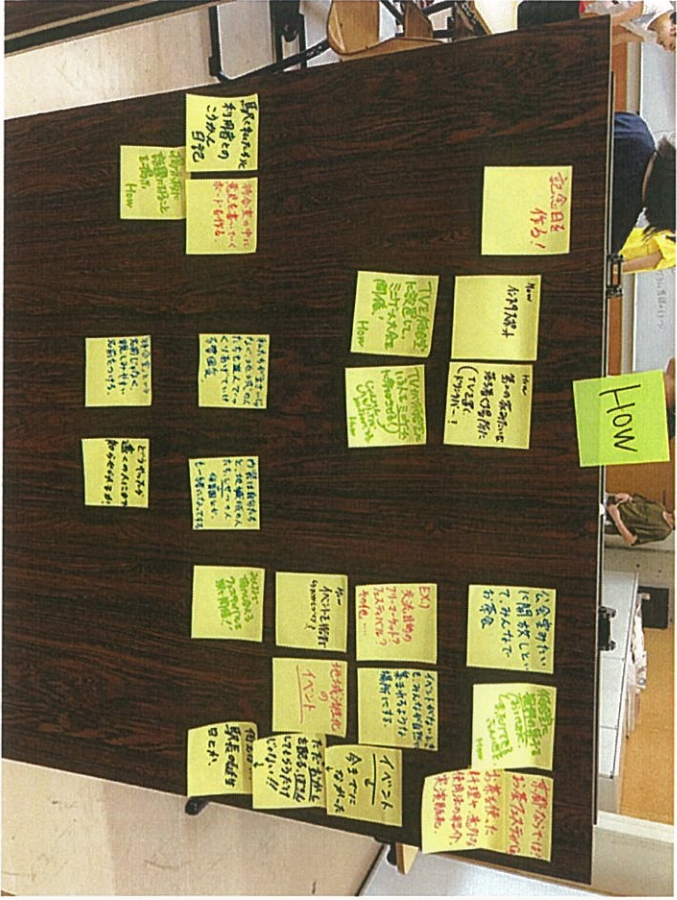
3月 プラン実行(仕上げ)/会社訪問/全校への報告・広報/まとめ

以上

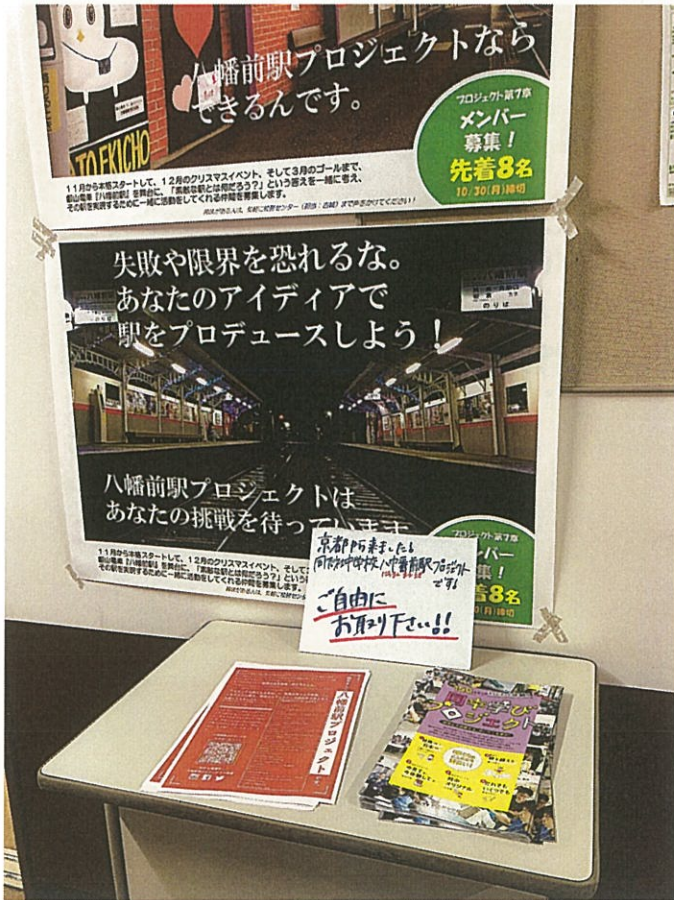
# 4月 スタート時のメンバー



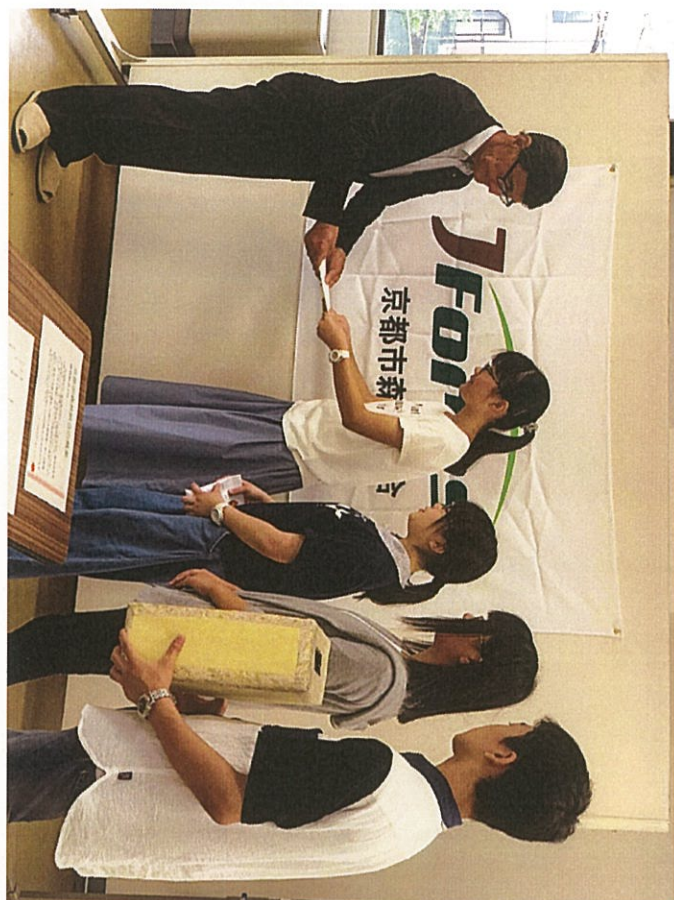
8月 Learn by Creation 出展@東京



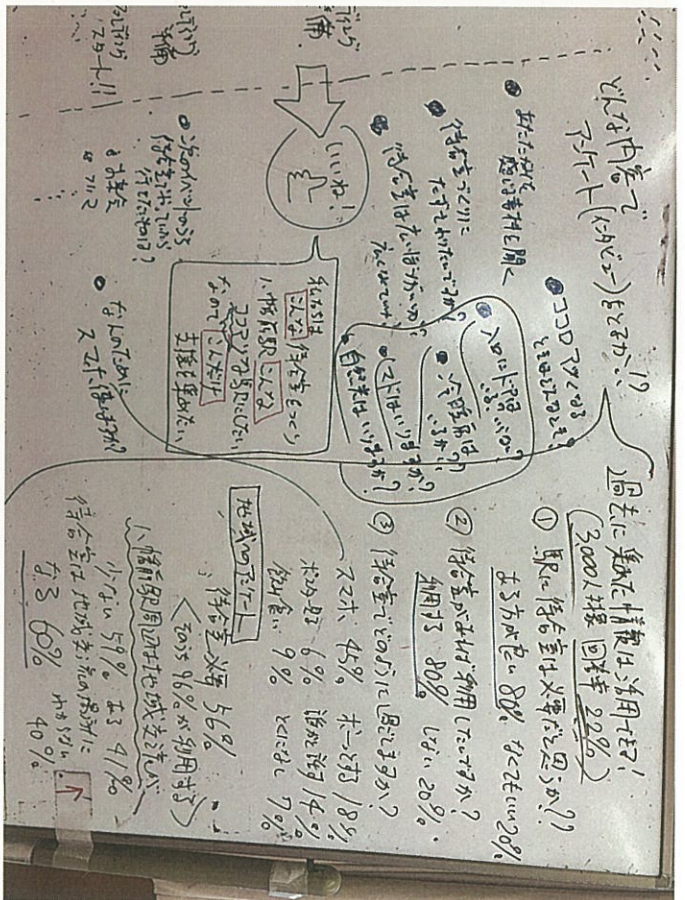
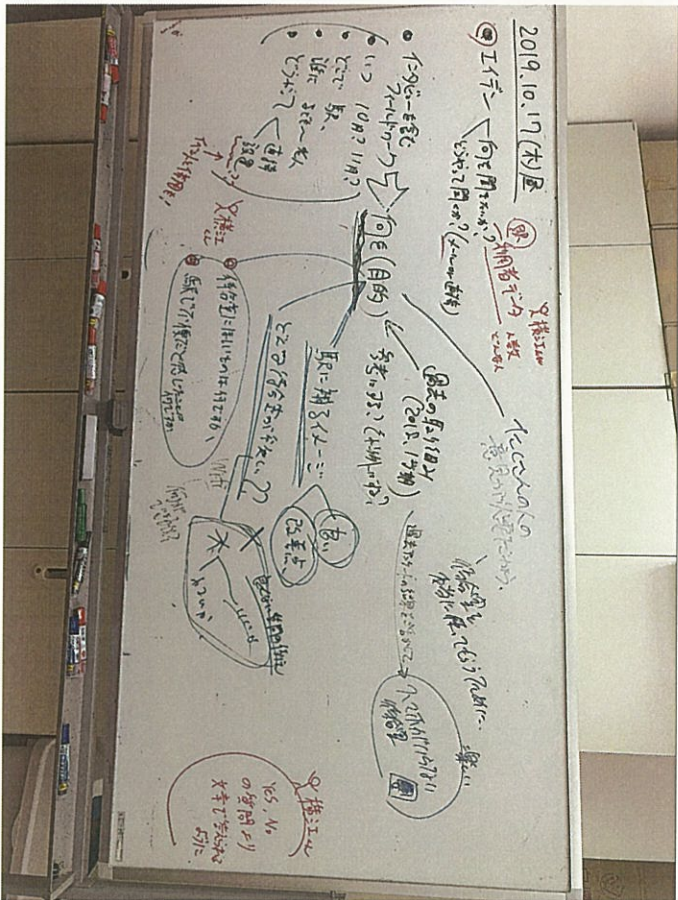
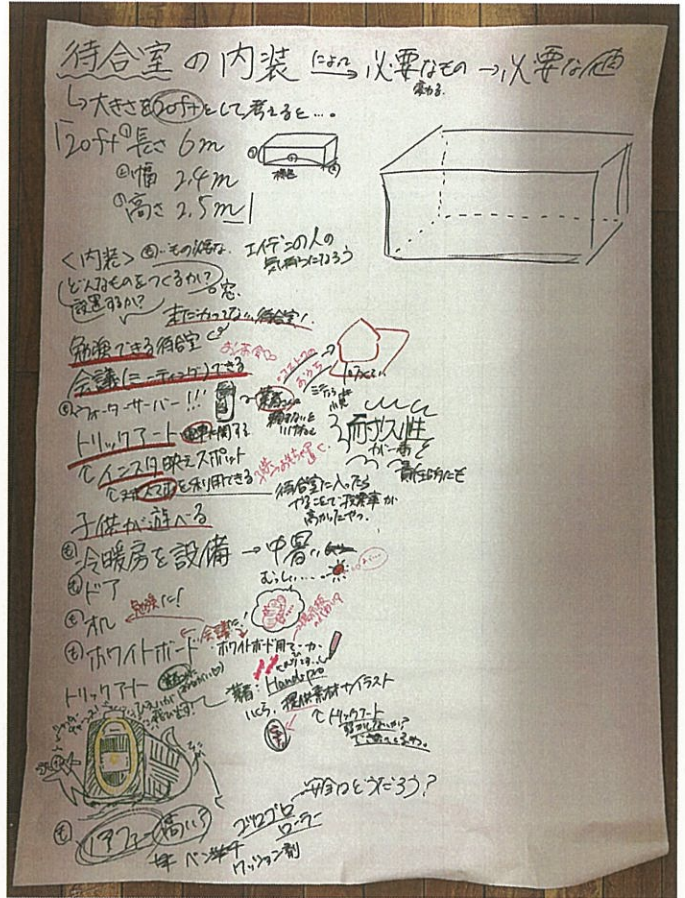
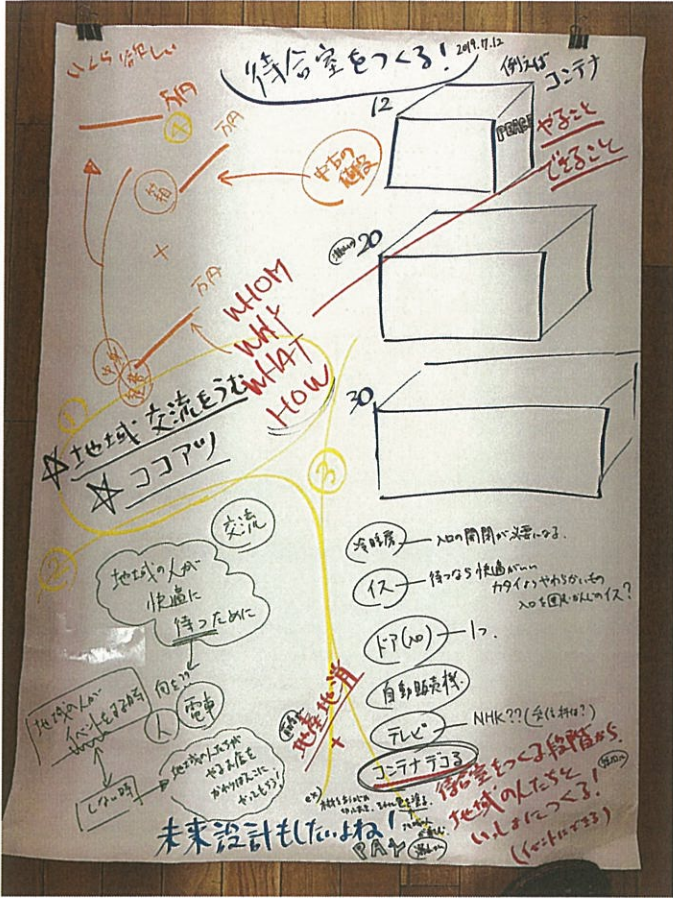
JA Learn by Creation で 特子、(7-クシヨツ)とフレザレ-3ヨ2)



8月 京都市森林組合へ寄付贈呈式

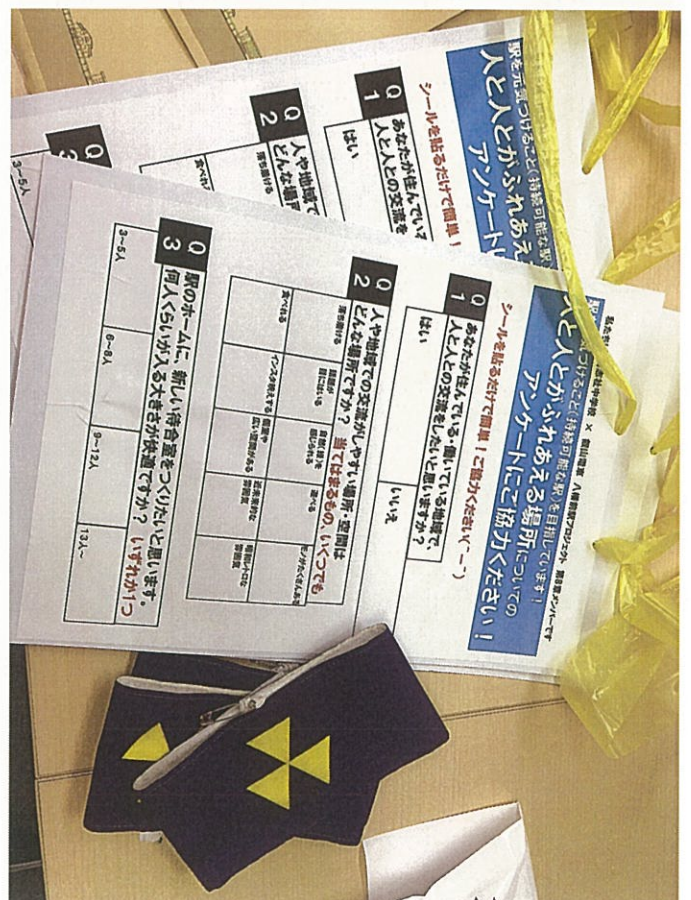
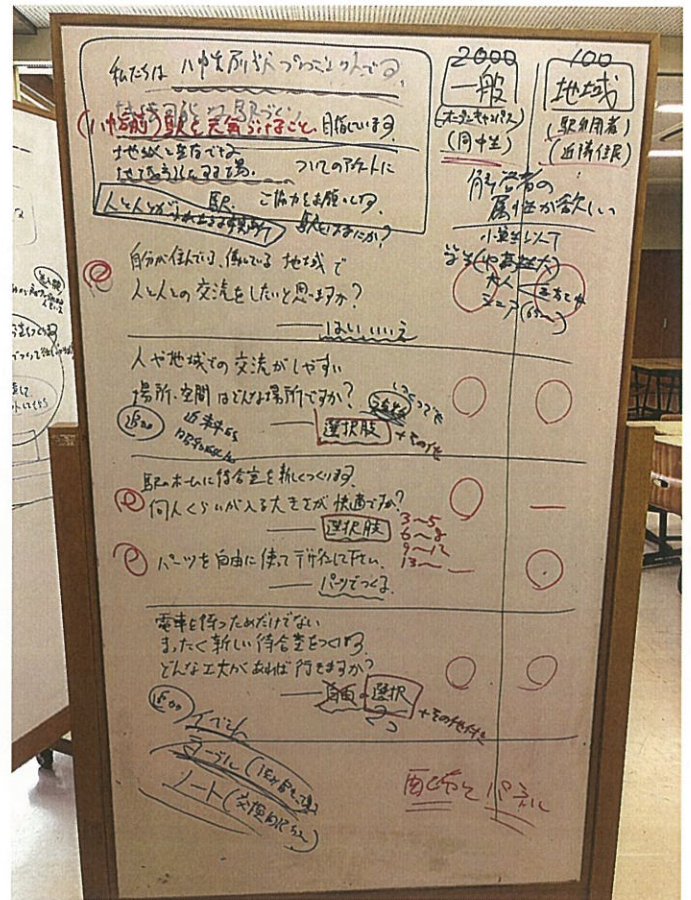
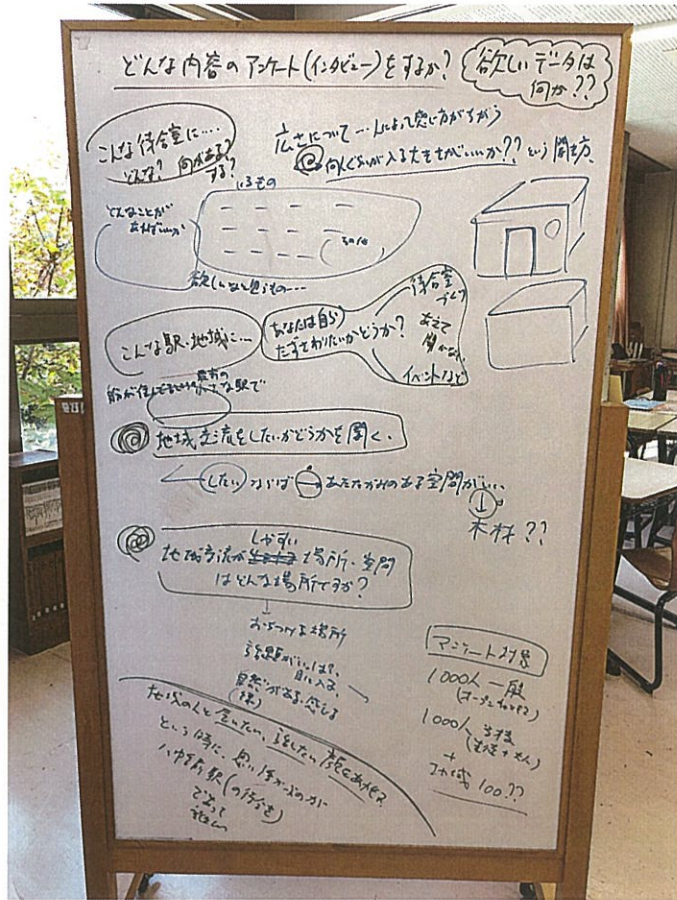


9月~10月



10月～11月

アンケート準備



ホームキャブスに設置したアンケートの様子。



# 駅での街頭アンケート活動



私たちは 同志社中学校 × 飯山電車 八幡前駅プロジェクト 第8章メンバーです  
 駅を元気づけること(持続可能な駅)を目指しています！  
**人と人がふれあえる場所についてのアンケートにご協力ください！**

シールを貼るだけで簡単！ご協力ください(´-`)

**Q 1** あなたが住んでいる・働いている地域で、人と人との交流をしたいと思いますか？

はい	14	いいえ	11
----	----	-----	----

**Q 2** 人や地域での交流がしやすい場所・空間はどんな場所ですか？ 当てはまるもの、いくつでも

落ち着ける	話題が目にはいる	自然(緑)を感じられる	遊べる	モノがたくさんある
8	1	5	6	0
食べれる	インスタ映える	個室や広い空間がある	近未来的な雰囲気	昭和レトロな雰囲気
2	0	5	0	0

**Q 3** 駅のホームに、新しい待合室をつくります。何人くらいが入る大きさが快適ですか？ いずれか1つ

3~5人	2	6~8人	11	9~12人	2	13人~	1
------	---	------	----	-------	---	------	---

**Q 4** 電車を待つためのだけでない、まったく新しい待合室をつくりたい。どんな工夫があれば、そこへ行きますか？

どれか2つまで

テレビや新聞など情報がある	無料の飲み物がある	地域のお店の割引チケットなどが手に入る	無料のWi-Fiなど通信ができる
6	2	1	7
昭和レトロな佇まい	イベントが行われる	読み書きができるテーブルがある	交換ノート・伝言板のようなものがある
2	3	5	1

以上、ありがとうございました！

私たちは 同志社中学校 × 飯山電車 八幡前駅プロジェクト 第8章メンバーです  
駅を元気づけること(持続可能な駅)を目指しています！

**人と人がふれあえる場所についてのアンケートにご協力ください！**

**Q 1** 駅のホームに、新しい待合室をつくりたい。何人くらいが入る大きさが快適ですか？ いずれか1つ

3~5人	6~8人	9~12人	13人~
22	59	139	123

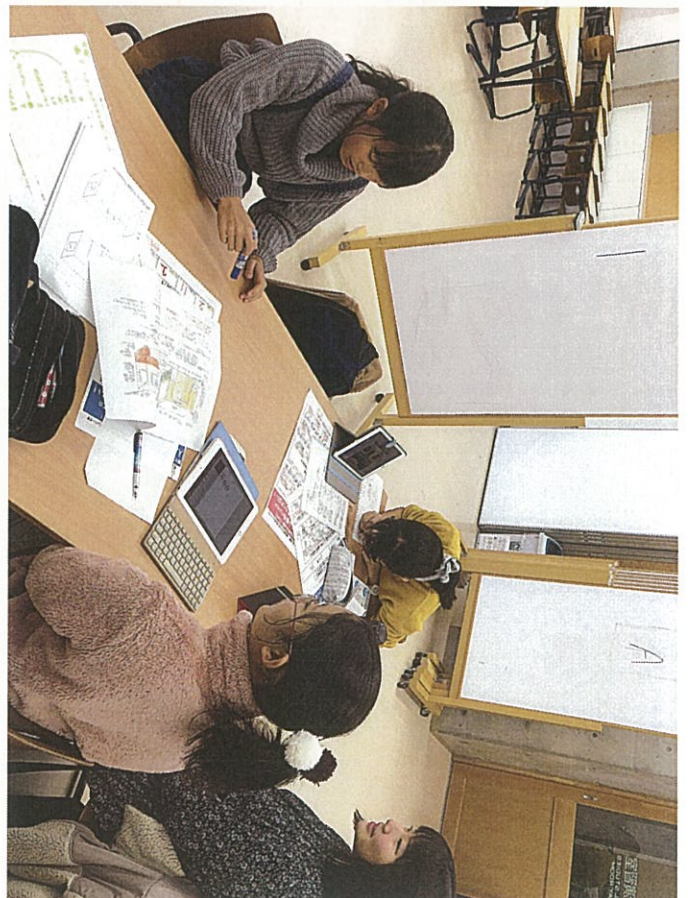
0 7 15 / 1 18 40 / 16 69 54 / 14 59 50

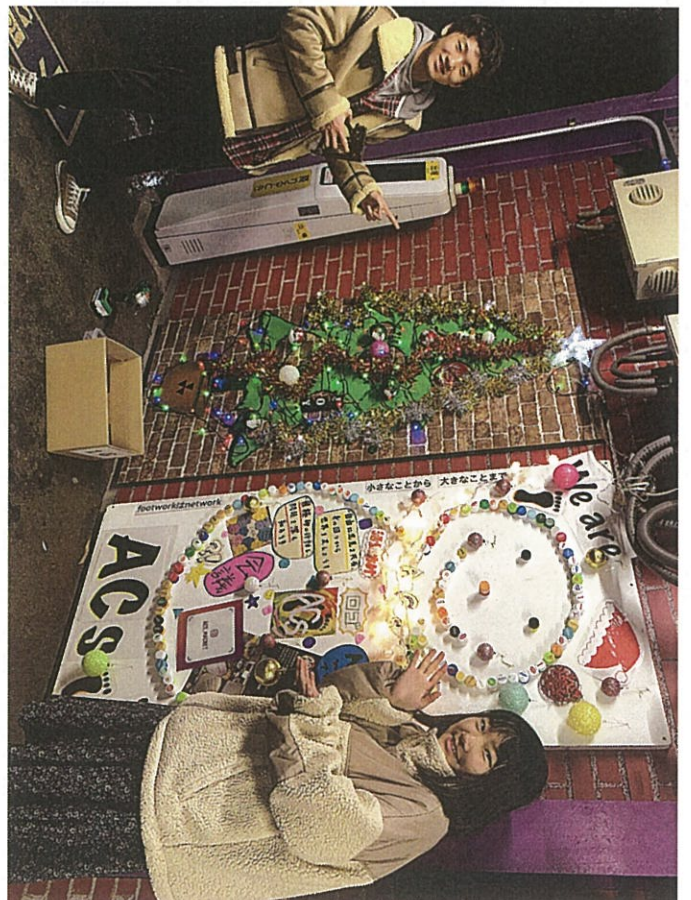
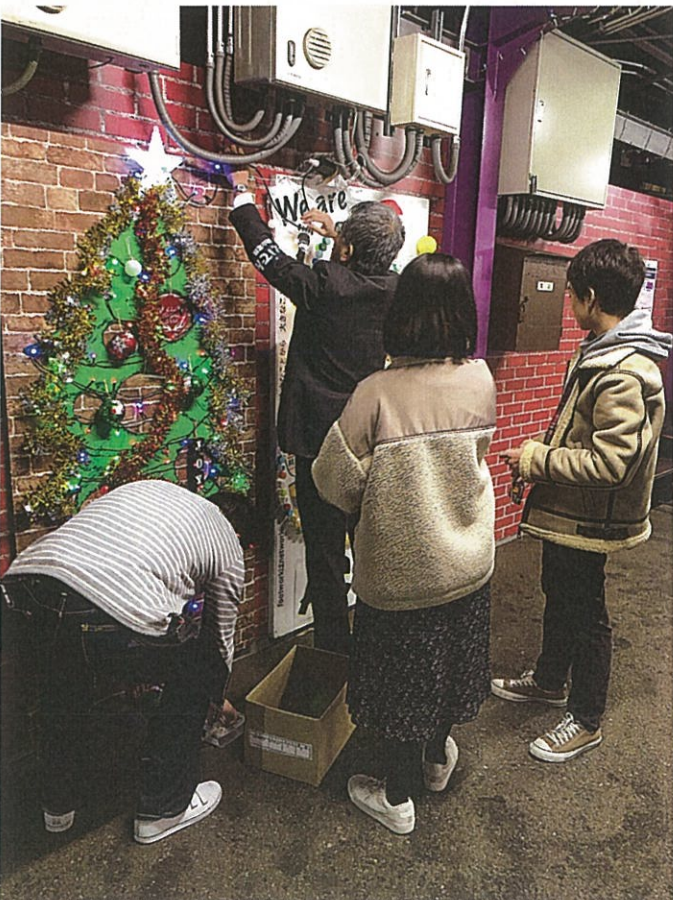
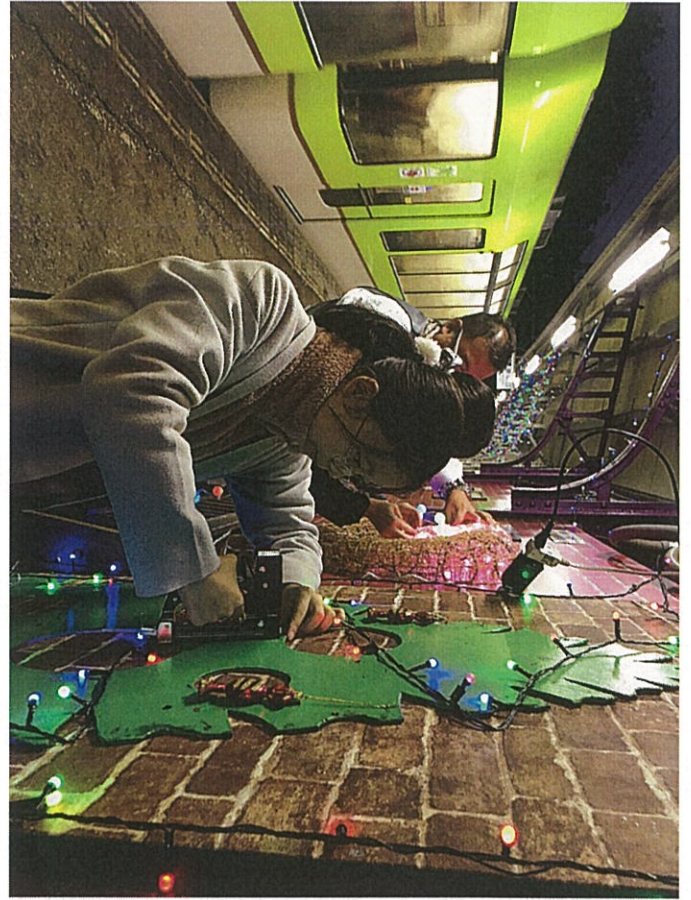
**Q 2** 電車を待つためのだけでない、まったく新しい待合室をつくりたい。どんな工夫があれば、そこへ行きますか？

どれか2つまで

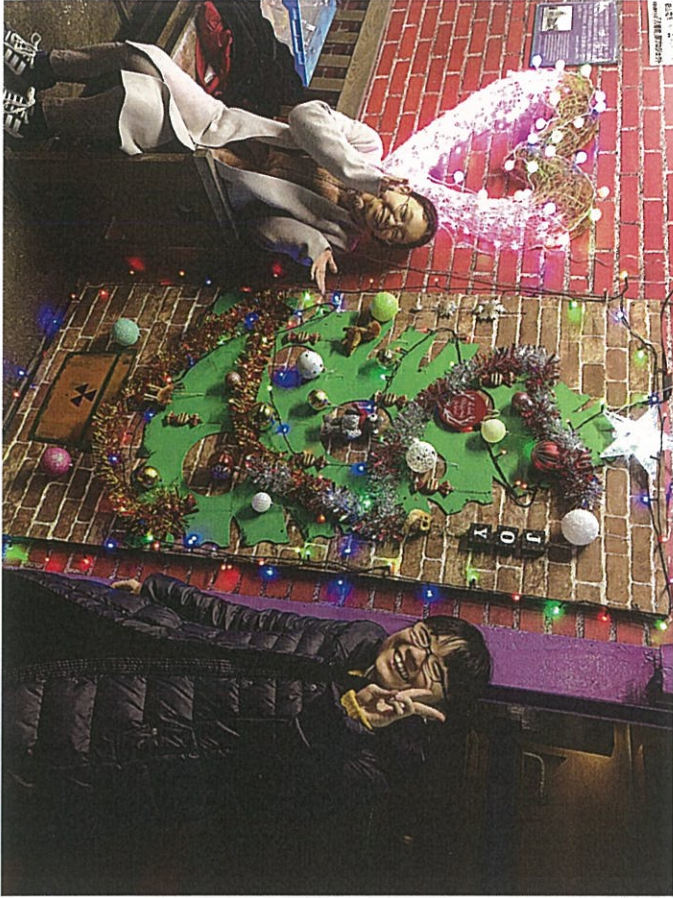
テレビや新聞など情報がある	無料の飲み物がある	地域のお店の割引チケットなどが手に入る	無料のWi-Fiなど通信ができる
50	131	22	236
昭和レトロな佇まい	イベントが行われる	読み書きができるテーブルがある	交換ノート・伝言板のようなものがある
15	13	46	29

以上、ありがとうございました！

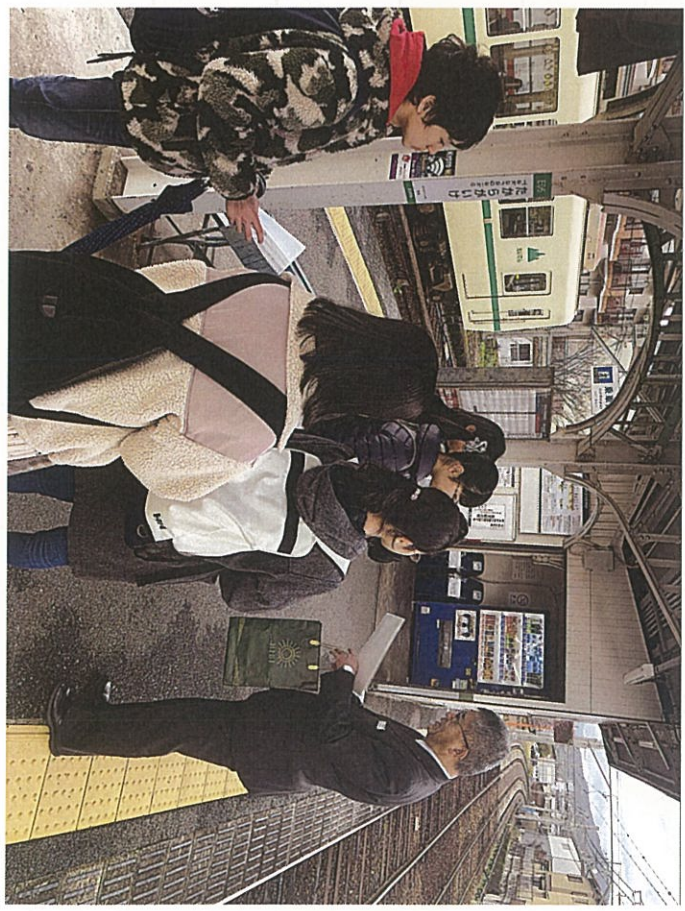
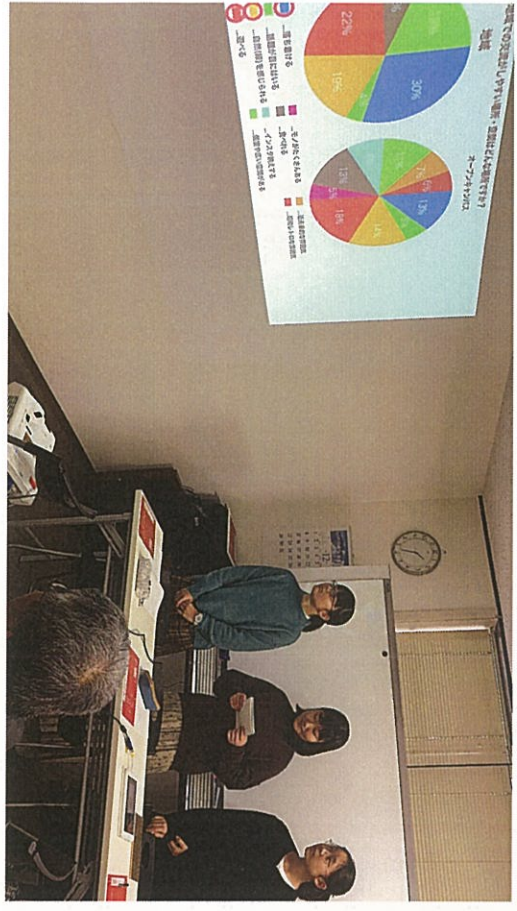
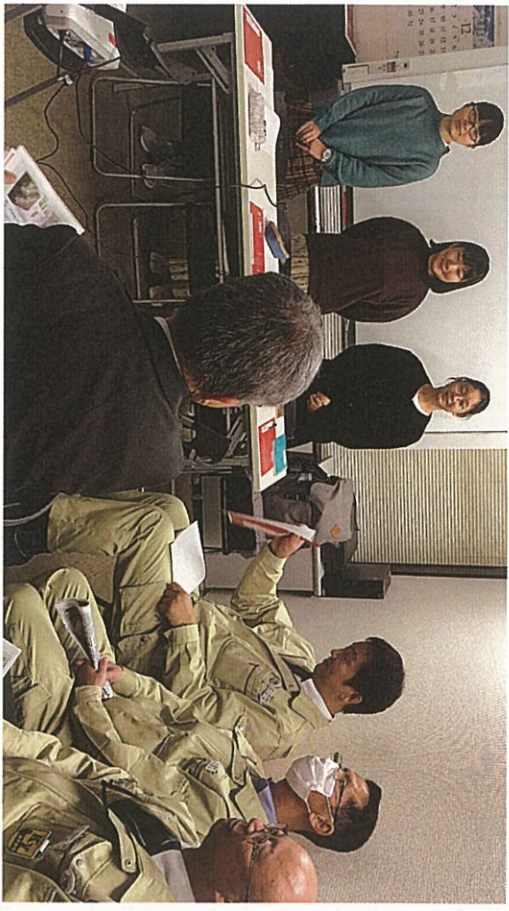




12月 駅 クリスマス デコレーション 活動。



12月 叡電 本社でのプレゼンテーション



1月 駅裡孝UPの様子

